

≪阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業≫ 介護サービス事業所部会【報告書】			
サービス種別	訪問介護事業所部会		
開催日時	令和8年2月24日(火) 10:00~11:00	開催場所	阿南市役所203会議室
部会代表者	松田	報告者	松田
議題	①次年度に向けた部会運営体制について ②在宅医療連携における「4つの場面」の課題整理及び意見交換 ③訪問型独自サービス限定研修について		

議題①		次年度に向けた部会運営体制について	
検討した項目	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者の選出 ・代表者の役割について(再周知) ・役割分担・任期等の確認 		
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者の選出 		
結論	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き、代表者は松田で継続。副代表は無しでの体制とする。 ・代表者は8種別事業所が集う代表者会で情報共有等を行い、共有した事項については部会で報告を行う。 ・任期は原則1年として毎年、部会で協議して選任を行う。 ・部会を通じて、横のつながりを強化し、事業所間の情報共有や意見交換の場を増やすことの重要性が再認識された。 		
残された課題	今回、部会参加事業所が5事業所と参加が少なかったため、事業所の意見集約をして今後参加率増を勧めていく。		
備考	特記なし		

議題②	在宅医療連携における「4つの場面」の課題整理及び意見交換
検 項 討 目 し た	①日常の療養支援 ②入退院時等における連携 ③緊急時の対応 ④看取り 訪問介護部会として取り組んでいる課題に対してまとめ表を完成する。
検 容 討 内	4つの場面への取り組み説明及び意見交換 課題抽出
結 論	<p>・訪問介護における4つの場面</p> <p>①日常の療養支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者側のサービス理解不足：訪問介護で提供できるサービスとできないサービスの線引きが難しく、利用者から「大掃除」のような依頼をされるケースがある。 ・軽度認知症利用者への対応：物忘れや物取られ妄想、被害妄想のある利用者への対応が困難で、ヘルパーの精神的負担や安全確保が課題。 <p>日常の支援は認知症支援への知識向上に取り組む。</p> <p>②入退院時等における連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院時の荷物対応：基本的に家族が行うため、ヘルパーが対応するケースは稀。 <p>③緊急時の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急変時の対応：ヘルパー訪問時に利用者の急変に遭遇することはあり、その際は家族または事業所に連絡し、状況によっては救急車を要請する。 <p>④看取りについては、現状に合わせた取り組みを代表者へ連絡して実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の経験とプレッシャー：在宅での看取り経験がある事業所もあるが、精神的なプレッシャーが大きい。 ・業務効率と収益性：看取り後の利用者減少により、ヘルパーの稼働時間が一時的に大きく空いてしまい、その空白を埋めるために要支援サービスを受けざるを得ない状況に陥る。 ・医療連携の進展：往診医や訪問看護の増加により、在宅看取りへの対応は以前よりしやすくなっている。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護事業所数が少なく、事業所間の連携や意見交換の場が不足している。
残 さ れ た 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所との情報共有：複数事業所が関わる利用者に対し、グループLINEなどによる情報共有は有効だが、統一された仕組みがない。 ・要支援者の見守りニーズ増加：火の元確認や服薬確認など、見守り目的の訪問介護ニーズが増加傾向にある。 ・サービスの「グレーゾーン」対応：以前の事業所では対応していた「グレーゾーン」のサービス(例：高い場所の物取りなど)について、事業所やヘルパーによって対応が異なる。
備 考	<p>ICT化による業務効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の課題 <ul style="list-style-type: none"> -多くの事業所で記録が手書きで行われており、業務効率が悪い。 -漢字検索の手間など、手書きによる非効率性や、記録の共有が困難である。 ・ICT化のメリット <ul style="list-style-type: none"> -業務効率化：タブレットやアプリでの入力により、記録作成時間の短縮が期待される。音声入力機能の活用も有効。 -情報共有の促進：記録データの一元化とリアルタイム共有(例：LINE WORKS、特定の介護ソフトなど)により、ヘルパー間の連携がスムーズになる。 -人材確保への寄与：若い世代はICT機器に慣れているため、手書きに抵抗のある人材の確保に繋がる可能性がある。 -初期費用と補助金：ICT導入には初期費用がかかるが、国や自治体の補助金制度(例：介護職員処遇改善加算の要件)を活用できる場合がある。 ・懸案事項 <ul style="list-style-type: none"> -初期費用の捻出：赤字経営の事業所にとって、初期費用が導入への大きな障壁となる。 -高齢ヘルパーへの対応：ICT機器への抵抗があるヘルパーへの導入教育とサポートが必要。 -利用者からの同意：ボイスレコーダーやタブレットでのサインなど、利用者の同意やプライバシー保護への配慮が必要

議題③	訪問型独自サービス限定研修について
検討した項目	訪問型独自サービス従事者研修について説明実施
検討内容	特記なし
結論	<p>《阿南市の取り組みと要望》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合事業サービスヘルパー研修：阿南市では、無資格者が1日研修を受けるだけで要支援サービスに従事できる「訪問型サービスA従事者研修」を年1回実施している(例年3月～4月頃)。 ・今後の対応：事業所単位での研修実施も可能であり、人材確保のため、研修への参加を促す。 ・単価改善の要望：阿南市に対し、要支援サービスの単価引き上げを要望しているが、現状は難しい。 ・ヘルパー確保に向けた連携強化：ハローワークと連携し、登録ヘルパーだけでなく、正規のヘルパー確保に向けた取り組みを阿南市が進めている。 ・訪問型独自サービス限定研修の無料実施要支援の方への訪問サービス限定で、6時間程度の研修を受けると、ヘルパーとして訪問できる研修が無料で実施される。
残された課題	特記なし
備考	特記なし

議題④	訪問介護事業所の人材確保と経営課題
検討した項目	<ul style="list-style-type: none"> ・経営状況 ・人材確保 ・阿南市の取り組みと要望
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・経営状況の厳しさ ・人材確保の困難さ ・阿南市の取り組みと要望

<p>結論</p>	<ul style="list-style-type: none"> •経営状況の厳しさ <ul style="list-style-type: none"> -訪問介護事業所の利益率が厳しく、赤字経営の事業所も存在し、事業継続が困難な状況。 -要支援サービスの低単価や高熱水費などの経費上昇が経営を圧迫している。 -介護保険給付対象サービスの報酬見直しも検討すべきとの意見が出た。 •人材確保の困難さ <ul style="list-style-type: none"> -訪問介護ヘルパーの確保が困難。特に身体介護に対応できる人材が不足している。 -高齢のヘルパーが増加しており、身体介護への対応が難しいケースが増えている。 -新規利用者(特に重度者)へのヘルパー確保が難しく、いわゆる「難民」となる利用者が増える懸念がある。 •阿南市の取り組みと要望 <ul style="list-style-type: none"> -総合事業サービスヘルパー研修：阿南市では、無資格者が1日研修を受けるだけで要支援サービスに従事できる「訪問型サービスA従事者研修」を年1回実施している(例年3月～4月頃)。 •今後の対応：事業所単位での研修実施も可能であり、人材確保のため、研修への参加を促す。 -単価改善の要望：阿南市に対し、要支援サービスの単価引き上げを要望しているが、現状は難しい。 -ヘルパー確保に向けた連携強化：ハローワークと連携し、登録ヘルパーだけでなく、正規のヘルパー確保に向けた取り組みを阿南市が進めている。
<p>残された課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> •人材確保のための取り組みを引き続き阿南市と連携して、事業運営に反映させる。
<p>備考</p>	<p>特記なし</p>

【会議風景写真】

